

1. 授業の概要(ねらい)

この授業では、主に15世紀から20世紀までを対象として、国と国・地域と地域などの相互の繋がりがや影響に主眼を置いて、経済史をより国際的な視点から学びます。

経済の三要素といわれるヒト・モノ・カネに加えて、そのほかさまざまな要因(制度・情報・技術・宗教・教育・地理・環境など)も考慮に入れながら、今日のグローバルな世界の成り立ちについて学びます。

2. 授業の到達目標

- ① 経済史とはなにかを説明できる。
- ② 経済的に不均衡な世界の成り立ちを、その歴史的背景から説明できる。
- ③ 過去や歴史を知ることで、現在生きている状況を相対化し、複眼的な思考を養う。

3. 成績評価の方法および基準

平常点 (30%): ① 毎回の授業内課題、② コメント・カード、③ 出席状況

※ 特別な事情がなく3回欠席があった場合には、自動的に評価の対象外とします。遅刻は2回で欠席扱いとなります。

期末試験(70%): 授業で扱った内容を範囲として、60分の筆記試験を実施します。

※ 授業内で行う小課題は期末試験の準備も兼ねています。毎回の出席を心がけてください。

4. 教科書・参考文献

教科書

特に指定しません。必要に応じて、授業やLMSなどで配付します。

参考文献

馬場哲、山本通、廣田功、須藤功 『エレメンタル欧米経済史』 (晃洋書房 2012年)

堺憲一 『あなたが歴史と出会うとき: 経済の視点から』 (名古屋大学出版会 2009年)

川北稔 『世界システム論講義: ヨーロッパと近代世界』 (筑摩書房 2016年)

5. 準備学修の内容

授業で指定する予習箇所必ず目を通すこと。

現在、「グローバル」な視点から書かれた歴史書が、一般向けにも多く刊行されています。書店に立ち寄る機会があれば、ぜひ関連書棚を眺めてみてください。もちろんネット上で閲覧できる書評なども活用してください。

また、普段から、自分を取り囲む生活環境に目を向けて、その歴史的な背景についても少しだけ考えてみてください。

6. その他履修上の注意事項

この授業での内容を補完する意味でも、また国際経済史をより深く理解するためにも、「アジア経済史」「西洋経済史」「国際経済論」などを併せて履修することが望ましい。

授業の内容や順番は変更になる場合があります。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション 【オンライン(LMSによるオンデマンド形式)】
- 【第2回】 歴史学とはなにか、経済史とはなにか?
- 【第3回】 中世ヨーロッパの都市と商業
- 【第4回】 地中海商業 【オンライン(LMSによるオンデマンド形式)】
- 【第5回】 北海・バルト海の交易
- 【第6回】 東アジアとインド洋の交易
- 【第7回】 ポルトガルとアジアの海
- 【第8回】 スペインの興亡
- 【第9回】 中国の海洋進出
- 【第10回】 17世紀のオランダ
- 【第11回】 東インド会社
- 【第12回】 大西洋奴隷交易
- 【第13回】 フランスと海
- 【第14回】 北アメリカ植民地とアメリカ合衆国の独立
- 【第15回】 まとめと試験